

合併前上越市、各区とも地域事業見直し論議必至

第5次総合計画（改訂版原案）で今後の財政見直し

上越市はこのほど開催された市議会総務常任委員会第5次総合計画改訂版素案を示しました。

委員会では合併協定で決められた新市建設計画と違った将来都市像（「海に山に大地に 学びと出会いが織りなす 創造都市・上越」）が打ち出されたことから、「14の市町村がともに助け合ってやっつけよう」と『共生都市』を掲げたはず。これでは後退ではないか」という異論がいくつもの会派から続出。総合計画の議案提出は12月議会にずれこむ公算が大きくなりました。

質問が出なかったものの、委員会で各委員、傍聴議員がびつくりしたのは、総合計画基本計画の資料（案）として出された財政フレームと地域事業費の配分額（下表・単位はいずれも億円）です。財政が厳しくなっているとはいえ、地域事業費が昨年1月に確定した数値よりも20%前後も削られていたからです。

市では、物件費、維持補修費などその他経費の支出が多く、普通建設事業費など投資的経費を抑えざるをえないと説明しています。今後、各区の地域協議会などで地域事業費削減を含めた見直し論議が行われるのは必至です。（右の写真は、山の「さしみ」。記事と直接関係ありません）



地域区分	平成18年1月確定額 A	第5次総合計画（改定版）			
		配分額 B	増減額（B-A）	増減率（B/A）	平成20～26年度分
合併前上越市	362.89 億円	288.17億円	▲74.72億円	▲20.6%	174.64億円
安塚区	23.90	19.36	▲4.54	▲19.0%	13.60
浦川原区	19.13	14.71	▲4.42	▲23.1%	10.71
大島区	17.47	14.34	▲3.13	▲17.9%	10.85
牧区	17.94	15.23	▲2.71	▲15.1%	10.82
柿崎区	39.42	30.16	▲9.26	▲23.5%	19.72
大潟区	33.24	30.06	▲3.18	▲9.6%	19.96
頸城区	31.00	28.72	▲2.28	▲7.4%	19.46
吉川区	24.81	19.33	▲5.48	▲22.1%	11.28
中郷区	28.04	22.96	▲5.08	▲18.1%	14.74
板倉区	33.10	26.48	▲6.62	▲20.0%	17.52
清里区	14.29	11.30	▲2.99	▲20.9%	7.37
三和区	28.20	24.33	▲3.87	▲13.7%	18.28
名立区	10.02	6.60	▲3.42	▲34.1%	3.97
合計	683.45	551.75	▲131.70	▲19.3%	352.91

信越線、9月中旬に復旧

青海川駅付近で甚大な地震被害を受けた信越本線は9月中旬に復旧する見通しとの報告がありました。

現在、青海川駅付近の土砂の撤去、土砂止柵の新設、護岸壁及び駅ホームの復旧、トンネルの補修、軌道の整備などを行っているとのこと。

元気な高齢化集落視察

市議会農村議員連盟の部会で大島区藤尾、安塚区細野集落を視察してきました。

どちらも生産組合とかNPO法人を立ち上げ、元気いっぱい。藤尾では稲作の他、花苗栽培、農産加工などにも取り組んでいました。しっかりしたリーダーがいて楽しく活動している姿が印象的でした。



研修旅行は家族ぐるみで、しかも町場に出た人も一緒ににぎやかにやっているそうです。21日、藤尾で。

春よ来い 第八三回 お盆の頃に

今年七月に地震があつてバタバタしたせいでしょうか、いつの間にかお盆を迎えていたという感じがしました。でも、いったんお盆に入って、お墓参りやお盆の挨拶回りなどをするうちに、長年親しんできたお盆の頃の音や匂いなどを思い出し出してくるから不思議です。

まずは音です。夏の陽射しの中でミンミンゼミの鳴き声が大きく聞こえてきます。ミン、ミン、ミン、ミン。この最後のミンが寂しそうな独特の響きを持つているので、いつまでも耳に残ります。それからエゾゼミ、この夏は平場でも鳴き声を聞くことができましたね。「ギイー」「ギイー」「ギイツ、ギイツ、ギイツ」という鳴き声に初めて出会ったのはお盆泊まりへ行く道中でした。上川谷か、角間だったかと思ひます。この「ギイー」という音を聞いたたびに、母の実家へお盆泊まりに行った頃の思い出が浮かんできます。

スイカをたたいた時の音もお盆の頃のものです。先日、同年代の人たちと野山を歩く機会がありました。歩いていて汗がにじみ出てくる暑い日でした。一緒に歩いていて、健康診断の話になり、私は自分のわき腹を相撲取りのようにポンポンとやりました。軽く響きのあるポンポンという音が出ました。

歩いている人たちに、「どうだね、完熟スイカのようにだろうか？」と問いかけました。そうしたら、「うん、そんな音だったね」という声が出て、その後が賑やかになりました。「オラの子どもの時分には、毎日、スイカ畑に行つて、ポンポンとやっていたもんだ」「ポンポンの音も微妙に変わっていつて、すっきりしたポンの音になって、初めて食べられる」などという話がいつぱい出ました。

誰もが共通して記憶しているのはお宮さんでたたかれる太鼓の音です。お盆の頃の代表的な音。私が生まれ育つた尾神の神社も、いま住んでいる代石の神社も集落の中の高いところにあるものですから、そこでたたく太鼓の音は遠くまで伝わります。でも、盆踊りの衰退によって、最近ほとんど聞くことができなくなりました。

祭りの日は午後の早い時間帯から太鼓の音が聞こえてきたものです。酒を飲んだ、威勢のいい青年団の人たちが次々と交代しながら、ドドンガドンとやる。その音に子どもたちがひきつけられ、夜の盆踊りを心待ちにしました。夜、お宮さんの境内でたたかれる太鼓はすごい迫力でした。鉢巻姿で太鼓をたたく人の筋肉は隆々、リズム感あふれた体の動きは子どもたちの心を揺さぶりました。

次は青い空。お盆の頃の夏空は、真っ青な空にモクモクした雲が似合います。疲れた草や木々を癒すように時たまやってくる夕立はこの空からの贈り物です。

中学生の頃、お盆になれば、従弟たちを誘い、村屋の川へ魚を捕まえに行きました。子どもたちの間では、「魚つかめ」と言った遊びです。「魚つかめ」の時の必需品は耳栓、水中眼鏡、それにヤス。平沢橋付近から川に入り、石の下に手をつっこんだり、ヤスが飛出す手づくりの道具を使って魚を捕まえました。

今年のお盆、我が家は泊り客ゼロでした。父が要介護状態であり、母も昔のようには「まかない」ができないことを知ってか、親戚の人たちも遠慮しているのでしょう。お盆から一〇日間くらいは、どこの町内会も祭りです。しかし、ここ数年、お宮さんからは太鼓の音が聞こえてこなくなりました。何となくさみしい感じがするのはそのせいかもしれません。

被災世帯数2600に迫る勢い

……中越沖地震、家屋などの建物被害状況最新版

	被災世帯数	住家				非住家			
		全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
		棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
合併前上越市	96				96	5	1	70	
安塚区	17				17	1		6	
浦川原区	96	1		2	93		2	54	
大島区	36				36			4	
牧区	58			2	56			5	
柿崎区	1223	9		26	1185	140	9	48	399
大潟区	42				42			3	38
頸城区	126	1		2	123	42	1	5	87
吉川区	626	2		13	612	100	15	56	328
中郷区	0								
板倉区	1				1				1
清里区	1				1				1
三和区	246	1	1	2	242	36	9	9	108
名立区	17				17				7
合計	2585	14	1	47	2521	324	34	124	1108

左表の数値は20日午後5時現在のものです。

被災世帯数は先週よりも多少にぶつてきたものの、増え続けています。2600世帯を超えるのは時間の問題でしょう。

なお、前号に記載の表で頸城区の半壊2が落ちていました。お詫びして訂正します。



右の花はクサボタン。尾神岳にて16日撮影。